区分14	専門基礎分野 人体の構造と機能	授業科目名	生理学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	井上　靖久	担当教員の実務経験	有・(無)

◆実務経験の内容

◆授業の目的・目標

人体の機能を理解するためにはまず、単細胞生物の生存条件を知る必要がある。その為には分子生物学的基礎の理解や多細胞生物への進化の根拠や条件を分析的に考える必要がある。その上で初めて、人体の構造と機能の相関を理解することが出来る。人体の体内環境、すなわち細胞外液の好適な構築・維持こそが個体としての生命維持に直結していることを実感することが重要である。生理学の前期の目標をまず、体液、血液、血液細胞の構成および循環器の相互関係を十分理解することに置く。さらに生命維持に不可欠な酸素をや栄養素を取り込むための呼吸器および消化器について学ぶ。

◆授業の概要・授業方針

授業にあたっては「講義ノート」を配布し、これに沿って講義を行う。また適宜、教科書の図表等も用いながら解説する。生理学は臨床検査学にとって最も基礎となる重要科目である。理解を伴わない医学領域の知識は意味をなさないどころか時として危険である。とはいえ、初心者にとってはある程度の「基本用語」を暗記することもまた止むを得ないこととして受け入れなければならない。その上で生命・健康維持のメカニズムを論理的に理解し説明出来ることが求められる。特に、健康状態から逸脱し、疾病に至るプロセスの理解は多くの多岐にわたる臨床科目の克服、ひいては国家試験の突破と専門職に至る近道でもあることを強調する。

◆テキスト・参考資料等

最新　臨床検査学講座　生理学　　医歯薬出版　　および配布「講義ノート」

◆成績評価の方法

期末試験（筆頭試験）

授業計画		チェック欄
第1回	単細胞生物・多細胞生物と体液	
第2回	血液と血漿	
第3回	赤血球、血小板、血液型	
第4回	白血球・免疫	
第5回	心機能	
第6回	心機能、心電図	
第7回	循環調節、血圧	
第8回	微小循環、リンパ系	
第9回	呼吸機能	
第10回	呼吸気量	
第11回	酸素解離曲線と呼吸調節	
第12回	咀嚼・嚥下	
第13回	胃、小腸、膵臓　消化	
第14回	吸収、消化管ホルモン	
第15回	肝臓　代謝・生体防御	